

## 1. 日本海における成長段階別の回遊様式の把握

### 緒言

過去に日本海で認められた寒冷期と温暖期で大きく異なるブリの漁況は、海洋環境の違いがブリの回遊様式に影響を与えたものと考えられる。特に若齢期における越冬環境の変化が成魚を含めた漁況の変化に強く影響を与えたと考えられるが、実証的な根拠に乏しい。近年、ブリの移動・回遊に対してアーカイバルタグによる研究が進み、高齢魚の移動・回遊については多くの知見が得られるようになった。しかし、若齢魚に対しては、アーカイバルタグの応用例は無く、若齢魚の移動・回遊については未解明の部分が多い。そこで、若齢魚を対象としたアーカイバルタグおよび通常タグを用いた調査とともに既往知見の再整理を行い、若齢魚の越冬に関する温暖期と寒冷期の違いに着目した調査研究を実施する必要がある。また、回遊様式の変化によって、漁況が実際どのように変化したのか、過去に遡った漁獲の詳細の把握は本研究の基礎的な資料である。

日本海で行われる若齢期から成魚期の、索餌場や越冬場での調査・研究に対し、産卵場での産卵親魚の挙動や回遊、産卵された仔稚魚の産卵期を推定するための研究は、ブリの生活史を通じた生態を把握するためには欠かすことができない。これら成長段階別の回遊様式の把握は、本プロジェクト研究の目的であるブリの漁況予報技術の開発のためには最も基本的で重要な部分である。

さらに、日本海沿岸各海域へ加入する主群のそれぞれの由来を推定するため、発生初期の耳石成長と水温の関係を実験的手法で解析した。この関係と、実際に天然海域で採集された仔稚魚、幼魚の耳石の初期成長試料とを付きあわせることで、日本海に来遊する稚幼魚の発生時水温から発生海域の推定を試みた。

(木下貴裕)